

右大概前ノ羽林家ニ同ジ、但新家也、仍昇進不定也、

〔海人藻芥〕名家者、日野勸修寺平家也、

〔職元秘抄〕名家ト云ハ、昔ハ武家ノ與力ノヤウナル者ニテ、内舍人ナドノ内ヨリモ、文學カ歌學カ、

何ニテモ一藝ニ勝ル、名ニヨリテ、家ヲ立テ直參ニナル、其家ヲ名家ト云、其次ガ諸大夫家也、諸

家ハ源平藤橘菅江清ナレドモ、今ハ江家ト橘氏トハ絶テナシ、

〔公武大體略記〕一名家

諸家の中に、先祖より近衛司を経て、少將中將より昇進し、武官を兼、劔笏を帶するをば羽林次將といひて、叙爵の始に侍從に任ず、又文筆を面として、儒道を學び、辨官を経て萬事を奉行するを名家と稱して、叙爵の始に、五位に叙して大夫と號す、

〔倭訓栞前編三十一〕めいか 公家にいふは、左右の辨官藏人を經歷して、次第に昇進の家々也、名

は功の意、有職才名をもて登庸あるをもて呼り、

〔三代實錄清和七〕貞觀十二年二月十九日辛丑參議從三位春澄朝臣善繩薨、略中善繩性周慎謹朴、

不以己所長加人、昔者爲文章博士之時、諸博士每名家、更以相輕、短長在口、亦弟子異門、互有分

爭、善繩謝遣門徒、恬退、因此終不爲謗議所及、

〔漢書三十〕漢興有齊魯之說、傳齊論者、昌邑中尉王吉、少府宋畸、御史大夫貢禹、尙書令五鹿充宗、膠

東庸生、唯王陽名家、師古曰、王吉、字子陽、故謂之王陽、傳魯論語者、常山都尉龔奮、長信少府夏侯勝、丞相韋賢、魯扶

卿、前將軍蕭望之、安昌侯張禹、皆名家、張氏最後而行於世、

〔漢書六十二〕太史公、仕於建元、元封之間、惑學者不達其意而師詩、乃論六家之要、指曰、略中法家嚴

而少恩、然其正君臣上下之分、不可改也、名家、使人儉而善失、真、師古曰、劉向別錄云、名家者、流、出於禮、古者名位不同、禮亦異、數、孔子

曰、必也、然其正名實、不可不察也、